

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 9月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0173200569		
法人名	有限会社 和		
事業所名	グループホーム 和		
所在地	士別市東1条2丁目440番地 (電話) 0165-22-1756		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年9月15日	評価確定日	平成21年10月7日

【情報提供票より】 (21年 8月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤15人, 非常勤 2人, 常勤換算	11.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1～2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費10,000円(5～9月)	
			光熱水費19,000円(10～4月)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (9月 15日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	11 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.6 歳	最低	61 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	士別市立病院、間宮歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

最後の屯田兵村である士別市は農業・林業を主とした街でしたが、今は「羊の町」としても有名です。ホームは市中心部の住宅街にあり、近くにスーパー・公共施設がある利便性の良い地域です。建物のある広い敷地には、パークゴルフができる芝もあり、地域交流の場として一役かってくれています。入口にはホームのシンボルである長寿の鳥・福籠とも呼ばれている「ふくろう」像が暖かく迎えてくれます。農業に従事していた利用者も多く、建物の周りの花作りや野菜栽培など、職員は教えていただくことが多く、理念の実践とともに、利用者・職員が穏やかに和んで暮らしています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で期待される取り組みについては、すでに改善されている内容や近々改善されることが決まっている項目、引き続き検討中の項目など、前向きに取り組んでいます。今後も改善計画シートの活用により、どのような経過で質の確保・向上が出来たかを職員全員で検討する取り組みを期待します。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は管理者が全体をまとめています。自己評価については職員全員で取り組むことが望ましく、サービス内容についての気付きや疑問、危機管理や予測、今後の改善への取り組みに活用するなど、具体案の検討・外部評価後の改善検討等を実践されることを期待します。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は家族代表・自治会長・包括センター職員、民生委員・運営者などを構成員として、2ヵ月に1度定期開催しています。会議においては活動報告や制度説明、また意見交換も行ないホームの運営に活かしています。感染についての予防・対策の説明を行ない、家族との信頼関係作りを努めています。地域包括支援センター職員の参加協力もあり意見もいただいています。各方面の方と関わりを持つことで、サービスの質向上に反映出来るように取り組んでいます。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は日頃から家族との交流を図り、家族が気軽に意見・要望等を伝えられるような雰囲気作りを努めています。3ヵ月毎に発行している広報誌「和新聞」には多彩な写真の掲載や、暮らしぶりが記載され、家族から好評をいただいています。担当職員は、家族の来訪時に日常の様子を詳しく伝え利用者別に便りも発行しています。受診の様子や請求書・金銭出納も確認していただいています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	職員は地域に根ざす大切さを理解しており、日頃から地元と馴染める生活作りを努めています。町内会主催の行事に参加したり、利用者と一緒に近くを散歩する時は、積極的に声掛けするなど、家族とともに顔馴染みになれるように心がけています。また、ホームで飼育されている犬は、セラピー犬として可愛がられており、コミュニケーション作りに一役かっています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念である「和む場所で、その人の力を大切にあたりまえの生活をともに生きる」に説明が加えられ、判りやすい内容で独自に作りあげられています。地域との繋がりについても信頼関係を大切にと明記されています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の随所に理念が掲示されており、全体会議や各ミーティングにおいて、管理者から内容についての説明が行なわれています。職員は、日々理念を意識することで、具体的ケアの実践に活かせるように取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員は地域に根ざす大切さを理解しており、日頃から地元と馴染める生活作りに努めています。町内会主催の行事に参加したり、利用者と一緒に近くを散策する時は積極的に声掛けするなど、家族とともに顔馴染みになれるように心がけています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的は職員全員が理解していますが、今回は管理者が全体をまとめていません。職員全員が参加しての自己評価には至っていません。	○	自己評価に関しては、職員全員で取り組むことが望ましく、サービス内容についての気付きや疑問、危機管理や予測、今後の改善への取り組みに活用するなど、具体案の検討・外部評価後の改善検討等を実践されることを期待します。

士別市 グループホーム 和

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族代表・自治会長・包括センター職員・民生委員・運営者などを構成員として、2ヵ月に1度定期開催しています。会議においては活動報告や制度説明、また意見交換も行ないホームの運営に活かしています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政には疑問点について問い合わせ相談を行ったり、市主催の研修会に参加しています。地域包括支援センター職員の運営推進会議への参加協力もあり意見もいただいています。関わりを持つことで、サービスの質向上に反映出来るように取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヵ月毎に発行している広報誌「和新聞」には多彩な写真の掲載や、暮らしぶりが記載され、家族から好評をいただいています。担当職員は家族の来訪時に日常の様子を詳しく伝え利用者別に便りも発行しています。受診の様子や請求書・金銭出納も確認していただいています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日頃から家族との交流を図り、家族が気軽に意見・要望等を伝えられるような雰囲気作りに努めています。要望については直ちに検討し希望に添えるようにしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少なく、定着率が高くなっています。職員の異動については、広報誌を通じて家族に紹介されています。職員は日頃から、利用者のダメージに繋がることがないような対応に心がけています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は人材育成の重要性を認識しており研修予定が盛り込まれ、機会あるごとに参加しています。職員一人ひとりの知識や経験に応じた外部研修にも交替で参加し、参加後も会議等で報告が行なわれ共有も図られています。市内の地域ケア会議に参加することで情報交換も行なわれています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域には他にグループホームが少なく情報交換や交流の機会が少なく、市主催の地域ケア会議参加の場のみとなっています。職員の他ホーム訪問・見学・交流についても要望があり、管理者は活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みを前向きに検討しています。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者宅を訪問し利用者や家族と面談し、その後ホームに見学に来ていただき、生活を体験していただくことで職員と顔馴染みになり、ホームの雰囲気に馴染んでいただけるよう努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの経験や得意なことを見極め、活躍できる場面作りの支援が行なわれています。利用者から生活の知恵や料理の味付け山菜の処理方法を教わったり、励まされたりしながら、共に支え合う関係が築かれています。2ヵ月に1度開催される「和喫茶」は貴重な交流の機会となっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用で、入居時や入居後に利用者の生活歴等の情報や心身の状況を継続収集しています。入居後も担当者は家族の意見や、日々の暮らしの中から利用者の希望・意向の把握に努めています。職員も意欲的に取り組み利用者の自立支援に努力しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画書については、職員と話し合いながらケア内容に反映するように作成されていますが、日常の記録が介護計画の目標やケア内容に対し連動して記載する書式になっていないため、記録から評価の達成状況についての把握がしづらくなっています。	○	利用者の生活目標に応じた対応が、実践されているかについての記録は、評価や検討の場面で重要な要素となります。記録については管理者も今後の課題と捉えており、介護計画書の短期目標に連動した日常の記録が記載出来る取り組みを期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヵ月に1度の見直しを行なっています。全体会議や各ユニット会議において経過記録や職員の意見から評価を行ない、新しい計画書が作成されています。また、利用者の状態変化に応じて、その都度見直しを行ない、作成後には家族に直接説明し、確認後に同意のサインをいただいています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の送迎や理美容院への付き添いなど、利用者の希望に応じた柔軟な支援をしています。必要物品の買出しや帰省、その他利用者の要望に応じた支援を行なっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員は利用者の希望する医療機関への通院に同行し、主治医への状態の報告、聞き取りを行ない家族にも報告しています。安定した状態の時には薬取りなどの支援も行ない、適切な医療が受けられるように対応しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた細かい指針が用意されており、家族と方針を共有し同意をいただいています。協力医療機関と連携を図ることにより、今後予想される看取り・重度化・終末期への対応が検討されています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りや自尊心を損ねることのないような声かけや対応を心がけています。また、写真の掲載や名前の表示、書類の取り扱いについてもプライバシー保護のための同意手続きも行なわれています。より一層確実となる取り組みも検討されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはありますが強制することなく、職員は一人ひとりを尊重し、体調や生活歴を大切に、その人らしい生活となるよう支援しています。ラジオ体操参加や職員と共に過ごす時間、お寺への訪問もあり、自分の時間を大切にしています。		

士別市 グループホーム 和

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の好みや希望を採り入れながら献立を決めています。食材の買出し・調理・後片付けなどを一緒に行なうこともあり、ホーム内のプランターで収穫された野菜も盛り付けされ、食事が楽しみの一つとなる支援が行なわれています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回は入浴できるよう支援されています。入浴を拒む利用者へは、タイミングを合わせ状況に応じて、声かけすることで対応しています。入浴が生活の中で楽しみのひとつとなるよう支援されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け・包丁研ぎ・買物・菜園づくりなど、生活の中で趣味や役割を持てるよう支援しています。機能が低下する中で、能力を最大限引き出せるような試みにも力を入れています。ホームで飼育されている犬はセラピー犬として活躍しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	嗜好品の買物・散歩・夏祭りへ参加で憩いの時間作り・プランターでの野菜作りや自宅への帰省など、利用者の希望に応じた外出支援を行なっています。管理者は、今後もより多くの外出機会を確保するよう検討しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけることの弊害を十分理解しており、日中は施錠していません。利用者が外出する様子が見られる時はさりげなく声かけし、利用者の安全面に配慮しながら、一緒に出かけるようにしています。		

士別市 グループホーム 和

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回消防署や設備会社の協力で避難訓練を続けています。救急救命講習やAEDの使用説明等も受け、職員は事故防止に努めています。昨年の指摘事項である備品の整備については、今年度も検討中であり、地域への協力体制作りについても継続取り組みとなっています。	○	状況に合わせた利用者と共に進める避難訓練、備品の整備、夜間を想定した訓練への取り組みは不可欠と考えます。また、地域住民への協力の働きかけや、避難場所の確保・周知など今後も十分な取り組みを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事・水分摂取量を一人ひとりについて記録しており、職員は情報を共有し体調管理を行なっています。メニューについては利用者の嗜好に合わせ検討し、また食事制限や病状による食事管理にも対応しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく開放的なリビングにはソファや椅子が多く設置され、利用者が思い思いの場所で過ごせる共用空間となっています。展示等も工夫され、利用者にとって快適な居場所作りに配慮されています。消臭や光・音・温度・湿度等も適宜調節され、一日を過ごす憩いの場となっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は利用者一人ひとりの個性があり、使いやすいように家具やベット、仏壇が持ち込まれ、利用者が安心して暮らせるような工夫をしています。以前の生活と変わることのないよう精神的負担を軽減できるような配慮がされています。		

※ は、重点項目。